

令和7年度 第2回 学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立とりかい高等支援学校
校長名	福井 浩平
開催日時	令和7年11月27日（木）14：00～16：30（6限に授業見学）
開催場所	大阪府立とりかい高等支援学校 校長室
出席者（委員）	瀧本 一夫、川橋 健太郎、森川 晶平、岩田 一成、堀江 美香
出席者（学校）	福井 浩平、金田 裕介、折橋 清暢、工藤 大輔、水嶋 育美、島田 真理、福岡 勇太、加藤 洋介、田中 恵、大井 雅晴、本村 さや香
傍聴者	0名
協議資料	① 次第 ② 学校運営協議会 委員名簿 ③ 学校運営協議会 事務局名簿 ④ 7月授業参観週間保護者アンケート ⑤ 10/25(土)体育祭保護者・卒業生アンケート ⑥ 外国語科の授業でのBASE in OSAKAの活用について ⑦ 令和7年度3年生（11期生）進路状況 ⑧ 令和7年度 学校経営計画及び学校評価【進捗状況】

議題等（次第順）

- (1) 授業見学について
- (2) 7月授業参観週間保護者アンケートについて
- (3) 10/25(土)体育祭保護者・卒業生アンケートについて
- (4) 外国語科の授業でのBASE in OSAKAの活用について（体験あり）
- (5) 令和7年度3年生（11期生）進路状況について
- (6) 令和7年度学校経営計画の進捗状況について
- (7) 学校教育自己診断（生徒・保護者・教員）の実施について
- (8) その他、質疑応答

協議内容・承認事項等（意見の概要）

（1）授業見学について

協議会の前に、6限の授業見学を行い、1年生の学科（生産技術科、食とみどり科、生活科学科）の授業を見ていただいた感想である。

【委員】

- ・立って挨拶をしたり、生徒同士でも敬語で話したり、ビジネスマナーができていて、前向きに取組む生徒が多かった。
- ・細かい作業が多く、自分にできるのかと思うほどで、すごいなと思った。よく頑張っていて、生徒の成長が楽しみだ。
- ・実際に授業見学をして、真面目で素直で素晴らしい生徒だと毎回思う。どんどんいろんなことを吸収していくと思う。先生方も尽力され、生徒はのびのび楽しんでいる。行事も協力してコミュニケーション力を伸ばして自分のものにしている。仕事をする上でのビジネスマナーも授業の中でできている。
- ・普段から生徒を見ているが、いつもと変わりなく、よそいきの顔でもなく、緊張はしていたが、ハキハキと委員の質問に答えてくれた。
- ・生徒みんなの顔が生き生きしているのが一番良かった。やらされているのではなく、自らやっていると

いう雰囲気があった。

(2) 7月授業参観週間保護者アンケートについて

【教務主任】

17件の参加のうち、11件の回答があった。授業の雰囲気の良さや挨拶のことなど、肯定的な回答が多かった。

【委員】

だいたいいつもこれくらいの参加者数なのか？

【教務主任】

4月の参観は、1年生は初めての参観で、土曜日なので参加は多いが、7月の参観は例年これくらいの参加である。

【委員】

前回もお伝えしたが、アンケートの内容をぜひ生徒に伝えてあげてほしい。

(3) 10/25(土)体育祭保護者・卒業生アンケートについて

【生徒指導主事】

保護者・卒業生とも良かったという意見が多かった。「3年間の成長を感じられた」、「今まで小中学校での体育祭を本人は楽しめていなかったが、とりかいの体育祭では楽しめていた」といった感想があった。

【委員】

アンケートに書かれている要望や質問に対する返事は返すのか？

【生徒指導部長】

返す場はないが、今後検討していきたい。

【委員】

次の体育祭の参考にしてください。

(4) 外国語科の授業での BASE in OSAKA の活用について（体験あり）

【首席】

大阪府では、国内外で活躍できる人材育成のため、海外姉妹校との交流に関する取組みをすすめている。その一環として、生徒の英語を話す力の育成のため、1年生にAIを搭載した英語学習ツール「BASE in OSAKA」が導入された。聴覚障がい支援学校、視覚障がい支援学校、高等支援学校にも導入されている。先日、1年生の授業の、挨拶や相手の調子を聞く英会話で、音読練習機能を使って各自で練習した後、生徒同士で実際にペアワークを行った。

（説明後、実際にipadを使って音読練習機能を体験していただいた。）

【委員】

- ・生徒にとって、楽しく学べるというところが良い。
- ・興味を持って、英語力を高めていけるのは良い。
- ・高校生って、みんなの前で流暢に英語を話すのが恥ずかしいもので、それが1人で発音練習できるので良い。
- ・実際に体験してみて、良い点数が出ないとショックなものですね。府から決まって導入されたものでも、楽しそうって生徒が思えるように指導していってほしい。実際の場面で英語を話し、その後もモチベーションを保って学んでいってほしい。

(5) 令和7年度3年生（11期生）進路状況について

【進路指導主事】

近畿統一用紙が改定され、今年度から履歴書をPC打ちすることが可能となった。手書きの生徒もPC打ちの生徒も両方いる。就職はもちろん、就職以外の選択肢も探していくながら、引き続き、生徒それぞれに合った進路先の決定に向けて動いていく。

【委員】

- ・今年度から始まった就労選択事業も1つの選択肢としてあるのではないかと思うので、活用していただきたい。地域の連絡会にも引き続きご参加ください。
- ・時代の動きや、需要と供給もあるのでしょうか。

【進路指導主事】

企業の選択肢も多くなってきているが、それ以外の進学先の選択肢も増えてきている。今は進学を希望している生徒はいないが。

【委員】

- ・障がい者就労に関わっている中で、webで副業にチャレンジしたい人や個人事業主になりたい人も出てきている。AIも発達してきている。
- ・大学生の就活では、オンライン面接も多いが、就労の際にオンライン面接もあるのか？

【進路指導主事】

基本的に今は対面で面接を行っている。丁度3年生は、面接に向けて面接練習を校内で随時行っているところである。

【委員】

就職のオファーは毎年会社から来るのか？

【進路指導主事】

頂いている。

【委員】

会社から信頼して頂いているんですね。

(6) 令和7年度学校経営計画の進捗状況について

【校長】

- ・アレルギーの項目について、いわゆる食べ歩きに対するアレルギー対策は難しくなっている。事前に食べる物を決めて成分表を取り寄せて確認しないといけないので、当日その場でこれを食べよう！という醍醐味を味わいつらくなっている。
- ・遅刻の項目について、これまでの学校運営協議会のアドバイスを受けて、評価指標を遅刻した件数ではなくて遅刻していない生徒の数に変更した。遅刻が多い生徒についてはどう支援していくかはこれまで通り考えなくてはならない。また、数だけでは一概に言えないところもあり、在学中は遅刻があっても、働き出すと遅刻せずに職場に行けている生徒もいるので、支援・指導を続け、卒業後にも期待したい。
- ・クラブ活動の項目について、年度途中はなかなか入部しづらいかと思うので、年度初めにも入部しやすいよう働きかけていきたい。入部している生徒は、校外での試合は発表も含めて充実した活動ができると思う。また、共生推進教室の生徒や卒業生と合同チームとして出場している大会もある。
- ・校内教員研修の項目について、急な出張や年休もあって参加率が少し低下したが、どの研修も充実した内容で、参加者の満足度は高い。
- ・高校への支援の項目について、依頼があっての相談なので、〇件をどう評価するかは検討中である。校

長会でも周知していく予定である。

- ・英語学習ツールの項目について、外国語の授業で生徒は楽しんで実施できていた。
- ・働き方改革の項目について、改善していっているが、校内教員アンケートは年度末までに実施予定である。
- ・全体的には、概ね順調に進めている。

【委員】

遅刻について、在学中は遅刻していなかったが、仕事になると遅刻するという逆のパターンはあるのか？

【進路指導主事】

職場の人間関係によるところもあるが、ここのところの卒業生は安定して働いている。

【委員】

- ・1人の例だけを見て判断するのではなく、いろんなデータを集めて考えるということをしてほしい。
- ・クラブについて、入部しない生徒はなぜ入部しないのか？入りたいクラブがないのか？

【生徒指導主事】

中学校の時から入っていない生徒もいる。元々、運動が苦手であったり、だからといって文化系のクラブの選択肢がたくさんあるわけでもない。運動に対する生徒のイメージも変わってきている。学校が終わつた後は家でゆっくりしたいとも言っている生徒もいる。クラブ活動は今しかできないよと伝えてもなかなか入部に繋がっていかない。今年度は、クラブ紹介の行事に加えて、各クラブからの勧誘の校内放送をしたり、新聞部や美術部にクラブ紹介ポスターを作ってもらって掲示したりもしたのだが。来年度以降は、例えば、行きたいクラブだけではなく、ひとり通り全部のクラブを体験してみてから、どうするか考えられるようにしてみるとか、案を考えているところである。

【委員】

- ・生徒になぜクラブに入らないのかを聞いてみると、「早く帰りたいから」、「バスの時間があるから（バスの本数が限られているから）」。家に早く帰って何をするのか聞くと、「スマホ見る」、「ゲームする」という返答で、そういう時代なのかなと感じる。
- ・いっそ「ゲーム部」を作ってみては？！

【生徒指導主事】

- ・クラブ加入率100%になるかもしれませんね？！

【委員】

一般校の生徒の支援をどうするかということは課題である。学校からというよりも保護者からの相談が就ポツに来たりする。先生よりも本人や保護者が迷っていたりするのではないか。今は一般校にも障がいのある生徒も多く在籍している。学校の先生の集まりに就ポツも参加する予定である。ニーズを拾うのは大事である。

(7) 学校教育自己診断（生徒・保護者・教員）の実施について

【教頭】

毎年、実施しており、丁度実施中である。生徒については、各学年で実施し、ほぼ全員の回答が得られる予定である。保護者については、今のところ6～7割程度の回答率である。教員については、全員の回答を得ている。次回、第3回学校運営協議会で集約結果を示すので意見をいただきたい。

(8) その他、質疑応答

【首席】

先日、「大阪府立知的障がい高等支援学校魅力発信動画」が完成した。大阪府立の高等支援学校5校から

それぞれ代表の生徒が1名ずつ、なにわ高等支援学校に集まって、高等支援学校での学校生活を紹介する内容で撮影された。高等支援学校の魅力が詰まった動画である。

（説明後、視聴いただいた。）

【委員】

何年か続けて学校に来ているが、年々、温かい学校だと思う。スポンサー企業がこうやって協力して、というのは学校に魅力があるから。ますます学校を前に進めていってほしい。とりかいを誇りに思っていただけたらと思う。

次回の会議日程

日時	令和8年1月30日（金）14：30～16：30
会場	本校校長室